

ホンダの歴史・・・町工場から、空まで行った会社

横＝年代／縦＝4つの流れ。同じ列を縦に読むと、その時代に何が同時に起きていたかが見えます。

● 会社のできごと ● 危機と転換 ● 世界へ ● 技術

	1940s 創業	1950s 二輪で挑戦	1960s 四輪参入	1970s 規制に勝つ	1980s 世界生産	1990s ミニバン	2000s 技術の拡張	2010s 軽の王者	2020s 電動化
会社のできごと 組織・体制	1946 本田技術研究所 浜松で創業 1948 本田技研工業 設立 1949 藤沢武夫が参画 技術と経営の二人組	1950s 東京へ本社機能 販売網を全国へ	1963 四輪に参入 T360とS500	1973 創業者2人が引退 若い世代へ引き継ぐ	1986 アキュラ設立 北米向け高級ブランド				2024-25 日産との統合協議 まともらず終了 ⌚
危機と転換 いちばん苦しかった時		1954 資金難のさなかに マン島TT出場を宣言		1970s 排ガス規制 「不可能」と言われた基準 1973 オイルショック 小型車が求められる		1990s バブル崩壊後の低迷 販売が伸び悩む	2008 金融危機でF1撤退 のち復帰		2020s 電動化への巨額投資 単独での負担が課題 ⌚
世界へ レース・輸出・現地生産		1959 アメリカ進出 二輪の現地法人	1961 マン島TT優勝 宣言から7年で実現 1964 F1参戦 1965 F1初優勝 メキシコGP	1972 シビックが世界的ヒット	1982 米国で四輪の現地生産 日本メーカー初（オハイオ）			2015 HondaJet 納入開始 小型ジェット機	2021 F1で王座 供給チームがタイトル獲得
技術 作ったもの	1947 自転車用エンジン すべての出発点	1958 スーパーカブ のちに世界最多生産の二輪車へ	1967 N360 軽自動車のヒット作	1972 CVCCとシビック 後処理装置に頼らず規制をクリア	1981 世界初のカーナビ 地図を車に載せる発想 1989 VTEC よく回るエンジンの代名詞	1990 NSX 国産初の本格スーパーカー 1994 オデッセイ 会社を救ったミニバン 1999 インサイト 日本初の量産ハイブリッド	2000 ASIMO 二足歩行ロボット 2001 フィット タンクを床下に置き室内を広く	2011 N-BOX 軽の常識を変える	2021 高度な運転支援 市販車で実現 2020s e:HEVとEV 電動化を進行中 ⌚

 **いちばん大きな転換**

1972年のCVCCとシビック。世界中が「達成できない」と言った排ガス規制を技術で越えたことで、二輪の会社が自動車メーカーとして認められました。規制を敵ではなく機会に変えた例です。

 **ここだけ押さえる**

ホンダは、できない理由より先に手を動かす会社です。資金難のさなかに世界最高峰のレース出場を宣言し、7年で優勝した。その気質が、いまの車の"ここまでやるか"という工夫につながっています。

 **影の部分も見る**

独立を保ってきたぶん、電動化への投資は重い負担です。2024年から2025年の統合協議は、その現実の表れでした。会社の体力は、長く乗る人にとって無関係な話ではありません。